

## 海外研修便り

10月 8日

川股晴奈

NIHの木々も紅葉が見頃となり、秋の到来を感じる季節となりました。私は、アメリカでの生活にも慣れ、週末はスタッフのホームパーティに招待してもらったり、ワシントンD.CやNYへ観光に行ったりと、充実した日々を過ごしています。

最近の研修の状況ですが、病棟プログラムや、研究などを見学して過ごしています。



### NIHの廊下にはノーベル賞受賞者の資料や、絵画などの展示がたくさんあります

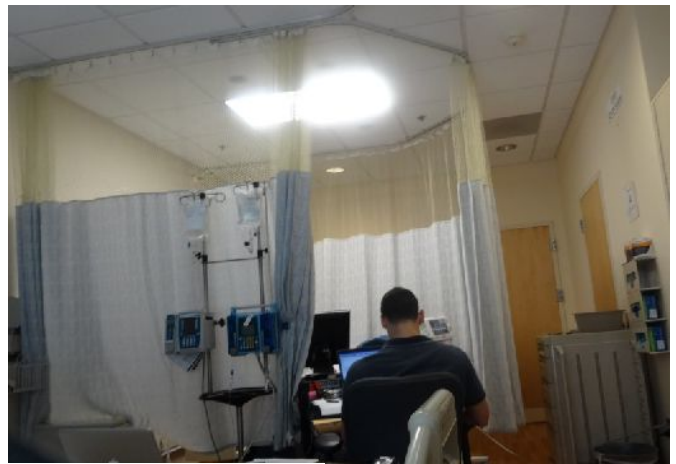
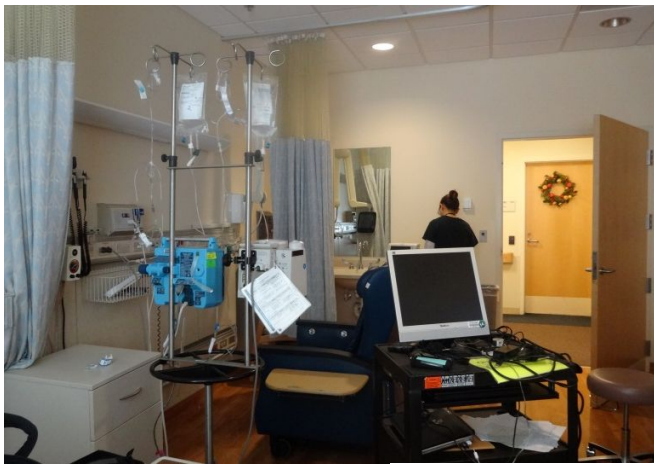
こちらの病棟では、認知行動療法や酒歴発表、ミーティングなどを看護師が担当しています。こちらの看護師さんに話をうかがうと、レクやセラピーに比べて、勉強に関する日課は参加者が少ない場合が多いとのことでした。この病棟では、日課は自由参加となっているので、患者さんが誰も参加せず、日課が中止になる日も少なくありません。この現状については「集団で考えるプログラムに参加して、自分の感情や考えを整理したり、知るということはとても大切なのにね。」と看護師さんも残念がっていました。

そんな中、私は一人の患者さんの酒歴発表を見学することができました。ジェリネックチャートという、アルコール依存症の進行過程を表した51項目の質問に沿って、患者さんが一つずつ発表していきます。発表している間にも、ほかの患者さんからの質問や感想が飛び交い、とても賑やかな発表の場となっていました。担当していた看護師さんは、患者さんの話に共感しながら、話の中で良かった点を伝え、とても些細なことまで評価していることが印象的でした。病棟は14床と少ないため、患者さん一人ひとりにしっかりと関わり、理解することができていると感じます。それと同時に、こちらでは患者さんと看護師が朝食を一緒に食べながら談笑するなど、日本では見かけない方法での患者さん自身を知るための多くの機会があるとも感じました。このように、アメリカでは他者とどんなときでも“話す”ということをととても大切にしていると感じます。アメリカと日本の文化は異なりますし、日本で行っている勉強会と内容も違いますが、日本で看護師がもっとできることはないか、など色々なことを考える機会となりました。

また、先日は病棟で行われている研究の様子を見学させていただきました。病棟での研究は、飲酒問題を持つ方の評価と治療を目的としており、研究に同意した入院患者さんの身体面の検査や、心理検査、カウンセリング、各種スケールなどを使って調査されています。この研究は、他の研究に参加できるかを調べる役割もあり、患者さんが同意すれば他の研究参加も追加されます。私が見学したのは、離脱期を過ぎた患者さんに不安

な気持ちが出現していないかを調べるスケールでした。これは、患者さんの主観で評価されるものと、看護師から見た様子で評価する項目もあります。スケールを使用するときは、看護師と患者さんの一対一の面接方式で行われますが、決して堅苦しい雰囲気ではなく、雑談も交えながら和やかで明るい雰囲気の中で行われます。初めて病棟に見学に来た頃、こちらの看護師さんが言っていた“看護師が私服で仕事をするのは、患者さんをリラックスさせるため”というのは、きੱっとういうことなのだと気づきました。

また、ラボでは、健康な被験者に対してアルコールがどのように作用するかなどを研究しています。アルコールが含まれた点滴を自分の好きなタイミングで注入するというものですが、ストレスがかかる状況の前後の心理テストや採血、飲酒欲求の変化などを調べます。見学を始めたばかりなので、まだまだ分からないことがたくさんありますが、スタッフが細かく教えてくれるので学びが深まっています。



研究が行われる部屋と、研究中の様子

この研修も残りあとわずかとなりました。新たな学びをもっと増やしていけるよう頑張りたいと思います。

